

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

「包括的精神症状スクリーニング介入プログラム」の開発に関する研究

研究分担者 小川 朝生 独立行政法人国立がん研究センター東病院 臨床開発センター
精神腫瘍学開発分野 心理社会科学室長

研究要旨 がん患者における抑うつは高い有病率にも関わらず見過ごされやすく、専門的治療を受けている患者は限られている。我々は、これまでに抑うつに対するスクリーニングツール（つらさと支障の寒暖計）を開発し、入院患者に対するスクリーニング介入の有用性を示してきた。しかし、スクリーニングツールにおいては、サンプルバイアスの問題と、ゴールドスタンダードが臨床診断である問題が指摘されてきたため、今回多施設（国立がん研究センター中央病院および東病院、岡山大学病院、東京大学医学部付属病院、名古屋市立大学病院）共同研究を行い、大規模なサンプルを用いることによって、性能について再評価を行うことを計画した。倫理審査委員会の承認を得て、調査を実施した。

A. 研究目的

がん患者における抑うつ（適応障害・うつ病）は高い有病率にも関わらず、臨床現場では見過ごされやすく、専門的治療を受けている患者は限られている。我々は、これまでに抑うつに対するスクリーニングツール（つらさと支障の寒暖計）を開発し、入院患者に対するスクリーニング介入の有用性を示してきた。また、近年抗がん治療の外来化が進んでいることを受け、2007年4月より、国立がん研究センター東病院通院治療センターにおいて外来化学療法を施行するがん患者に対し、スクリーニングを施行し、その得点に応じて精神腫瘍科受診を推奨するという“適応障害・抑うつスクリーニングプログラム”を臨床導入している。しかし、スクリーニングツールにおいては、サンプルバイアスの問題と、ゴールドスタンダードが臨床診断である問題が指摘されている。

今回、上記問題を克服するために、多施設（国立がん研究センター中央病院および東病院、岡山大学病院、東京大学医学部付属病院、名古屋市立大学病院）共同研究を行い、大規模なサンプルを用いることによって、「つらさと支障の寒暖計」の性能について再評価を行うことを目的とした。

B. 研究方法

国立がん研究センター東病院緩和医療科外

来にて、適格基準者を連続サンプリングし、文書による同意を得た上で、「つらさと支障の寒暖計（DIT）」を施行した。DITの結果を知らされていない独立した面接者が、Composite International Diagnostic Interview（CIDI）に基づきうつ病の診断面接を行い、DITのうつ病に対するスクリーニング能力を検討した。

（倫理面への配慮）

本研究は国立がん研究センター倫理審査委員会の承認を得ており、対象者には説明文書を用いて研究についての説明を行った後、文書にて同意を得た。

C. 研究結果

2012年9月11日～2012年9月26日で調査を施行した。緩和医療科外来で6名の患者の適格性を評価し、1名が不適格、1名がコンタクトできず、1名がCIDIのみ施行できなかったため、本年度は3名より有効なデータを得た。

D. 考察

緩和医療科外来で調査を施行したが、不適格者のほとんどは適格基準を満たさない積極的抗がん治療が中止された患者と、除外基準に該当する精神症状に対する専門治療を受けている患者であった。当院では抑うつを持つ患者に対し、何らかの精神科的介入は既にな

されていると考えた。

E. 結論

がん患者における抑うつ有病率は高いにも関わらず見過ごされやすく、専門的治療を受けている患者は限られている。

我々は、これまでに抑うつに対するスクリーニングツール（つらさと支障の寒暖計）を開発し、入院患者に対するスクリーニング介入の有用性を示してきた。しかし、スクリーニングツールにおいては、サンプルバイアスの問題と、ゴールドスタンダードが臨床診断である問題が指摘されている。

今回、上記問題を克服するために、多施設（国立がん研究センター中央病院および東病院、岡山大学病院、東京大学医学部付属病院、名古屋市立大学病院）共同研究を行い、大規模なサンプルを用いることによって、「つらさと支障の寒暖計」の性能について再評価を行うことを計画した。倫理審査委員会の承認を得て、調査を実施した。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Shirai, Y., Fujimori, M., Ogawa, A., Yamada, Y., Nishiwaki, Y., Ohtsu, A., Uchitomi, Y., Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial. *Psychooncology*. 21(7): 706-13, 2012
2. Ogawa, A., Nouno, J., Shirai, Y., Shibayama, O., Kondo, K., Yokoo, M., Takei, H., Koga, H., Fujisawa, D., Shimizu, K., Uchitomi, Y., Availability of Psychiatric Consultation-liaison Services as an Integral Component of Palliative Care Programs at Japanese Cancer Hospitals. *Jpn J Clin Oncol*. 42(1): 42-52, 2012
3. Shimizu K, Nakaya, N., Saito-Nakaya, K., Akechi, T., Yamada, Y., Fujimori, M., Ogawa, A., Fujisawa, D., Goto, K., Iwasaki, M., Tsugane, S., Uchitomi, Y., Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients:

a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project. *Ann Oncol*. 23(8): 1973-9, 2012

4. 上山栄子、鵜飼聡、小川朝生、山本雅清、川口俊介、石井良平、篠崎和弘、反復経頭蓋磁気刺激によるラット海馬における神経細胞新生の増加. *精神神経学雑誌*, 114(9): 1018-1022. 2012
5. 松本禎久、小川朝生、がん患者の症状緩和. *Modern Physician*. 32(9): 1109-1112, 2012
6. 小川朝生、がん患者の精神心理的ケアの最大の問題点. *がん患者ケア*. 5(3): 55, 2012
7. 小川朝生、がん患者に見られるせん妄の特徴と知っておきたい知識. *がん患者ケア*. 5(3):56-60, 2012
8. 小川朝生、悪性腫瘍（がん）. *精神看護*. 15(4): 76-79, 2012

2. 学会発表

1. 小川朝生. 医療者育成. 第25回日本総合病院精神医学会総会. 2012. 11. 大田区（シンポジウム演者）
2. 小川朝生. がん患者の有症率・相談支援のニーズとバリアに関する多施設調査. 第50回日本癌治療学会学術集会. 2012. 10. 25. 横浜（ポスター）
3. 小川朝生. がん診療におけるせん妄. 第6回日本緩和医療薬学会年会. 2012. 10. 7. 神戸市（シンポジウム演者）
4. 小川朝生. Cancer Specific Geriatric Assessment (CSGA) 日本語版の開発. 第77回大腸がん研究会. 2012. 7. 6. 港区（口演演者）
5. 小川朝生. 緩和ケアチームが精神心理的ケアを提供する工夫. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（シンポジウム座長）
6. 小川朝生. 緩和ケアにおける介入エビデンス. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（シンポジウム演者）
7. 小川朝生. 患者が意思決定できないときの対応. in 第17回日本緩和医療学会学術大会. 2012. 神戸市.（パネルディスカッション演者）
8. 小川朝生. 臨床心理士へのサイコオンコロジー教育. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市.（シンポジウム座長）

9. 小川朝生. 高齢者のサイコオンコロジー. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市. (シンポジウム演者)
10. 小川朝生. がん相談支援センターとサイコオンコロジーとの連携. in 第25回日本サイコオンコロジー学会総会. 2012. 福岡市. (シンポジウム座長)

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
特記すべきことなし。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍（外国語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Ando M, Morita T	How to Conduct the Short-Term Life Review Interview for Terminally Ill Patients.	Lancaster AJ, Sharpe O	Psychotherapy New Research	NOVA Science Publishers	US	2012	101-108

書籍（日本語）

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
井上真一郎, 内富庸介	B. サイコオンコロジー	日本乳癌学会	乳腺腫瘍学	金原出版株式会社	東京	2012	325-330
内富庸介	サイコオンコロジー領域における抗うつ薬の役割	小山司/監修	Depression Strategy うつ病治療の新たなストラテジー	先端医学社	東京	2012	7-12
井上真一郎, 内富庸介	⑥緩和医療におけるせん妄症例B	八田耕太郎、岸泰宏	病棟・ICUで出会うせん妄に診かた	中外医学社	東京	2012	153-167
寺田整司, 内富庸介	認知症を伴う糖尿病性腎症患者のケーススタディ	榎野博史	糖尿病×CKD 診療ガイドQ&A	南山堂	東京	2012	167-168
日本総合病院精神医学会がん対策委員会(監修)		小川朝生/ 内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	1-333
明智龍男	緩和ケアと抑うつがん患者の抑うつの評価と治療	「精神科治療学」編集委員会	気分障害の治療ガイドライン	星和書店	東京	2012	258-262
明智龍男	がん患者の心のケア-サイコオンコロジーの役割	NHKラジオあさいちばん	NHKラジオあさいちばん	NHKサービスセンター	東京	2012	100-110
明智龍男	緩和ケアに関する学会などについての情報-日本サイコオンコロジー学会、日本総合病院精神医学会	日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	ホスピス緩和ケア白書2012	日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	東京	2012	71-73
明智龍男	がん患者の自殺、希死念慮	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	75-87
明智龍男	精神療法	内富庸介, 小川朝生	精神腫瘍学クリニックエッセンス	創造出版	東京	2012	167-184
田村恵子, 森田達也, 他		田村恵子, 森田達也, 他	看護に活かすスピリチュアルケアの手引き.	青海社	東京	2012	

森田達也	55緩和医療 1. 疼痛緩和と終末期医療.	日本臨床腫瘍学会	新臨床腫瘍学改訂第3版.	南江堂	東京	2012	673-682
小川朝生	精神腫瘍学コンサルテーションこれだけは	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	21-28
小川朝生	不穏	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	71-74
小川朝生	せん妄	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	88-104
小川朝生	認知症	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	105-112
小川朝生	神経症状けいれん発作、末梢神経障害	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	145-55
小川朝生	緩和ケアチーム	小川朝生、内富庸介	精神腫瘍学クリニックエッセンス	社会福祉法人新樹会創造出版	東京	2012	262-274
小川朝生	緩和ケアチームに携わる精神症状緩和担当医師の現状調査	(公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団「ホスピス緩和ケア白書」編集委員会	ホスピス緩和ケア白書2012	(公財)日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団	東京	2012	46-51
小川朝生	がん等による慢性疼痛時のうつ病診察のコツと処方例	中尾睦宏、伊藤弘人	日常診療におけるうつ病治療指針	医薬ジャーナル社	東京	2012	135-148

雑誌 (外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Shimizu K, Akechi T, Ogawa A, Uchitomi Y, et al :	Clinical biopsychosocial risk factors for depression in lung cancer patients: a comprehensive analysis using data from the Lung Cancer Database Project.	Annals of Oncology	23(8)	1973-1979	2012
Ogawa A, Shimizu K, Uchitomi Y. et al :	Availability of psychiatric consultation-liaison services as an integral component of palliative care programs at Japanese cancer hospitals.	Jpn J Clin Oncol.	42(1)	42-52	2012
Asai M, Shimizu K,	Impaired mental health among	Psychooncology			In

<u>Ogawa A, Akechi T, Uchitomi Y, et al</u>	the bereaved spouses of cancer patients.				press
<u>Akechi T, Morita T, Uchitomi Y, et al</u>	Good death in elderly adults with cancer in Japan based on perspectives of the general population.	J Am Geriatr Soc	60(2)	271-6	2012
<u>Terada S, Uchitomi Y.</u>	School refusal by patients with gender identity disorder.	Gen Hosp Psychiatry	34(3)	299-303	2012
<u>Takeda N, Uchitomi Y, et al</u>	Creutzfeldt-Jakob disease with the M232R mutation in the prion protein gene in two cases showing different disease courses: a clinicopathological study.	J Neurol Sci	15;312(1-2)	108-16	2012
<u>Saito-Nakaya K, Uchitomi Y, et al</u>	Stress and survival after cancer: a prospective study of a Finnish population-based cohort.	Cancer Epidemiol	36(2)	230-5	2012
<u>Oshima E, Uchitomi Y, et al</u>	Frontal assessment battery and brain perfusion imaging in Alzheimer's disease.	Int Psychogeriatr	24(6)	994-1001	2012
<u>Ishida M, Onishi H, Uchitomi Y, et al</u>	Psychological Distress of the Bereaved Seeking Medical Counseling at a Cancer Center.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	506-12	2012
<u>Asai M, Uchitomi Y, et al</u>	Psychological states and coping strategies after bereavement among spouses of cancer patients: a quantitative study in Japan.	Support Care Cancer	20(12)	3189-203	2012
<u>Yoshida, H. Uchitomi, Y, et al</u>	Validation of the revised Addenbrooke's Cognitive Examination (ACE-R) for detecting mild cognitive impairment and dementia in a Japanese population.	Int Psychogeriatr	24(1)	28-37	2012
<u>Inoue S, Uchitomi Y, et al</u>	A case of adult-onset adrenoleukodystrophy with frontal lobe dysfunction: a novel point mutation in the ABCD1 gene.	Intern Med	51(11)	1403-6	2012
<u>Yamaguchi T, Morita T, Uchitomi Y, et al</u>	Effect of parenteral hydration therapy based on the Japanese national clinical guideline on quality of life, discomfort, and symptom intensity in patients with advanced cancer.	J Pain Symptom Manage	43(6)	1001-12	2012
<u>Fujimori, M. Uchitomi Y, et al</u>	Communication between Cancer Patients and Oncologists in Japan.	New Challenges in Communication with Cancer Patients	301-303		2012
<u>Akechi T, et al.</u>	Clinical Indicators of Depression among Ambulatory Cancer Patients Undergoing Chemotherapy	Jpn J Clin Oncol	42	1175-1180	2012

<u>Akechi T</u> , et al.	Perceived needs, psychological distress and quality of life of elderly cancer patients	Jpn J Clin Oncol	42	704-710	2012
<u>Akechi T</u> , <u>Morita T</u> , et al.	Dignity therapy: Preliminary cross-cultural findings regarding implementation among Japanese advanced cancer patients	Palliat Med	26	768-769	2012
<u>Akechi T</u> .	Psychotherapy for depression among patients with advanced cancer	Jpn J Clin Oncol	42	1113-1119	2012
Yamada A, <u>Akechi T</u> , et al.	Quality of life of parents raising children with pervasive developmental disorders	BMC Psychiatry	Aug 20;12	119	2012
Watanabe N, <u>Akechi T</u> , et al.	Deliberate self-harm in adolescents aged 12-18: a cross-sectional survey of 18,104 students	Suicide Life Threat Behav	42	550-560	2012
Shimodera S, <u>Akechi T</u> , et al.	The first 100 patients in the SUN(ND) trial (strategic use of new generation antidepressants for depression): examination of feasibility and adherence during the pilot phase	Trials	13	80	2012
Kinoshita K, <u>Akechi T</u> , et al.	Not only body weight perception but also body mass index is relevant to suicidal ideation and self-harming behavior in Japanese adolescents	J Nerv Ment Dis	200	305-309	2012
Hirai K, <u>Akechi T</u> , et al.	Problem-Solving Therapy for Psychological Distress in Japanese Early-stage Breast Cancer Patients	Jpn J Clin Oncol	42	1168-1174	2012
Asai M, <u>Akechi T</u> , <u>Uchitomi Y</u> , et al.	Impaired mental health among the bereaved spouses of cancer patients	Psychooncology	May 2	online	2012
Ando M, <u>Morita T</u> , <u>Akechi T</u> , et al.	Factors in narratives to questions in the short-term life review interviews of terminally ill cancer patients and utility of the questions	Palliat Support Care	10(2)	83-90	2012
Ishikawa Y, <u>Yoshiuchi K</u> , et al	Family preference for place of death mediates the relationship between patient preference and actual place of death: A nationwide retrospective cross-sectional study.	PLoS ONE	In press		
Fukui S, <u>Yoshiuchi K</u> , et al	The associations with the Japanese people's preference for place of end-of-life care and their self-perceived burden/concern to family members.	Journal of Palliative Care	In press		

Grassi L, <u>Yoshiuchi K</u> , et al	Psychosocial care in cancer: national cancer plans and psychosocial programmes in countries within the International Federation of Psycho-Oncology Societies.	Psycho-Oncology	21	1027-1033	2012
Fukui S, <u>Yoshiuchi K</u>	Associations with the Japanese population's preferences for the place of end-of-life care and their need for receiving healthcare services.	Journal of Palliative Medicine	15	1106-1112	2012
Fukui M, <u>Yoshiuchi K</u> , et al	Effectiveness of using clinical guidelines for conducting palliative care family meetings in Japan.	Supportive Care in Cancer	21	53-58	2013
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Providing palliative care for cancer patients: The views and exposure of community general practitioners and district nurses in Japan.	J Pain Symptom Manage	43(1)	59-67	2012
<u>Morita T</u> , et al	A region-based palliative care intervention trial using the mixed-method approach: Japan OPTIM study.	BMC Palliat Care	11(1)	2	2012
Igarashi A, <u>Morita T</u> , et al	A scale for measuring feelings of support and security regarding cancer care in a region of Japan: A potential new endpoint of cancer care.	J Pain Symptom Manage	43(2)	218-225	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Longitudinal follow-up study using the distress and impact thermometer in an outpatient chemotherapy setting.	J Pain Symptom Manage	43(2)	236-243	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Pain intensity, quality of life, quality of palliative care, and satisfaction in outpatients with metastatic or recurrent cancer: a Japanese, nationwide, region-based, multicenter survey.	J Pain Symptom Manage	43(3)	503-514	2012
Nakazawa Y, <u>Morita T</u> , et al	The current status and issues regarding hospital-based specialized palliative care service in Japanese regional cancer centers: A nationwide questionnaire survey.	Jpn J Clin Oncol	42(5)	432-441	2012
Sato K, <u>Morita T</u> , et al	Family member perspectives of deceased relatives' end-of-life options on admission to a palliative care unit in Japan.	Support Care in Cancer	20(5)	893-900	2012

Akiyama M, <u>Morita T</u> , et al	Knowledge, beliefs, and concerns about opioids, palliative care, and homecare of advanced cancer patients: a nationwide survey in Japan.	Support Care Cancer	20(5)	923-931	2012
Choi JE, <u>Morita T</u> , et al	Making the decision for home hospice: perspectives of bereaved Japanese families who had loved ones in home hospice.	Jpn J Clin Oncol	42(6)	498-505	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Development of a nationwide consensus syllabus of palliative medicine for undergraduate medical education in Japan: A modified Delphi method.	Palliat Med	26(5)	744-752	2012
Matsuo N, <u>Morita T</u> , et al	Physician-reported corticosteroid therapy practices in certified palliative care units in Japan: A nationwide survey.	J Palliat Med	15(9)	1011-1016	2012
Kaneishi K, <u>Morita T</u> , et al	Olanzapine for the relief of nausea in patients with advanced cancer and incomplete bowel obstruction.	J Pain Symptom Manage	44(4)	604-607	2012
Yamagishi A, <u>Morita T</u> , et al	Preferred place of care and place of death of the general public and cancer patients in Japan.	Support Care Cancer	20(10)	2575-2582	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Pros and cons of prognostic disclosure to Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	J Palliat Med	15(12)	1342-1349	2012
Yamaguchi T, <u>Morita T</u> , et al	Recent developments in the management of cancer pain in Japan: Education, clinical guidelines and basic research.	Jpn J Clin Oncol	42(12)	1120-1127	2012
Yoshida S, <u>Morita T</u> , et al	Practices and evaluations of prognostic disclosure for Japanese cancer patients and their families from the family's point of view.	Palliat Support Care	Aug 23	[Epub ahead of print]	2012
Kizawa Y, <u>Morita T</u> , et al	Specialized palliative care services in Japan: a nationwide survey of resources and utilization by patients with cancer.	Am J Hosp Palliat Care	Sep 3	[Epub ahead of print]	2012
Kunieda K, <u>Morita T</u> , et al	Reliability and validity of a tool to measure the severity of dysphagia: The food intake LEVEL scale.	J Pain Symptom Manage	Nov 12	[Epub ahead of print]	2012
Shirado A, <u>Morita T</u> , et al	Both maintaining hope and preparing for death: Effects of physicians' and nurses' behaviors from bereaved family members' perspectives.	J Pain Symptom Manage	Nov 15	[Epub ahead of print]	2012

Amano K, <u>Morita T</u> , et al	Effect of nutritional support on terminally ill patients with cancer in a palliative care unit.	Am J Hosp Palliat Care	Dec 12	[Epub ahead of print]	2012
Shirai, Y., <u>Ogawa, A.</u> , et al	Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial.	Psychooncology	21	706-13	2012

雑誌（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
<u>清水 研</u>	QOLを低下させる心の病。早期治療で改善を。	がんサポート	112	50-53	2012
<u>清水 研</u>	緩和ケアにおいて心身医学はどのような貢献ができるか？	心身医学	52	617-622	2012
矢野智宣, <u>内富庸介</u>	周術期のせん妄の診断と治療術前からリスク因子に対応し、必要に応じて薬物治療を	Life Support and Anesthesia	19(2)	144-8	2012
藤原雅樹, <u>内富庸介</u> , 他	うつ状態に対するlamotrigineの急性効果の検討	臨床精神薬理	15(4)	551-9	2012
<u>内富庸介</u>	がん患者の抑うつと薬物治療	臨床精神薬理	15(7)	1135-43	2012
<u>内富庸介</u>	がん医療においてサイコオンコロジストを築いてほしい心のケア体制	CLINICIAN	59	26-32	2012
<u>内富庸介</u>	がん医療におけるコミュニケーションスキル	造血細胞移植	24	2-3	2012
<u>内富庸介</u>	新規抗うつ薬について	CLINICIAN	59(8)	14-7	2012
矢野智宣, <u>内富庸介</u> , 他	うつ病を伴う口腔灼熱感症候群にpregabalinが有効であった1例	精神医学	54(6)	621-3	2012
<u>内富庸介</u>	がん患者の意思決定を支援する	Nurshing Today	27(5)	50-3	2012
<u>内富庸介</u>	悪い知らせを伝える際のコミュニケーション・スキルSHAREプロトコール	PSYCHIATRIST	17	5-22	2012
明智龍男	メモント・モリ	精神医学	54	232-233	2012
明智龍男	がん終末期の精神症状のケア	コンセンサス癌治療	10	206-209	2012
木下寛也, <u>松本禎久</u> , 他	がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響	Palliative Care Research	7	348-353	2012

松本禎久、小川朝生	がん患者の症状緩和—精神症状（せん妄、抑うつ、睡眠障害など）・倦怠感	Modern Physician	32	1109-1112	2012
松本禎久	国立がん研究センター東病院における専門的緩和ケアサービスの活動	がん患者と対症療法	23	158-162	2012
古村和恵、森田達也、他	市民の緩和ケアに対するイメージの変化.	緩和ケア	22(1)	79-83	2012
福本和彦、森田達也、他	オピオイド新規導入タイトレーションパスががん疼痛緩和治療に与える影響.	癌と化学療法	39(1)	81-84	2012
佐藤泉、森田達也、他	在宅特化型診療所と連携する訪問看護ステーションの遺族評価.	訪問看護と介護	17(2)	155-159	2012
井村千鶴、森田達也、他	患者・遺族調査の結果に基づいた緩和ケアセミナーの有用性.	ペインクリニック	33(2)	241-250	2012
森田達也	医療羅針盤 私の提言（第50回）地域緩和ケアを進めるためには「顔の見える関係」を作ることが大切である.	新医療	39(3)	18-23	2012
井村千鶴、森田達也、他	地域で行うデスカンファレンスの有用性と体験.	緩和ケア	22(2)	189-194	2012
森田達也	がん性疼痛に対する鎮静薬の副作用対策.	コンセンサス癌治療	10(4)	192-195	2012
森田達也	緩和ケアチームの活動とOPTIMの成果.	Credentials	44	9-11	2012
鄭陽、森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第1回WHO step II オピオイド:弱オピオイドの使用、WHO step III オピオイド:オピオイドの第1選択.	緩和ケア	22(3)	241-244	2012
森田達也、他	地域対象の緩和ケアプログラムによる医療福祉従事者の自覚する変化: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(1)	121-135	2012
古村和恵、森田達也、他	迷惑をかけてつらいと訴える終末期がん患者への緩和ケア—遺族への質的調査からの示唆.	Palliat Care Res	7(1)	142-148	2012
市原香織、森田達也、他	看取りのケアにおけるLiverpool Care Pathway日本語版の意義と導入可能性—緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディ.	Palliat Care Res	7(1)	149-162	2012
森田達也、他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が地域連携のために同職種・他職種に勧めること.	Palliat Care Res	7(1)	163-171	2012
森田達也、他	在宅緩和ケアを担う診療所として在宅特化型診療所とドクターネットは相互に排除的か?.	Palliat Care Res	7(1)	317-322	2012
森田達也、他	地域緩和ケアにおける「顔の見える関係」とは何か?.	Palliat Care Res	7(1)	323-333	2012
山田博英、森田達也、他	患者・遺族調査から作成した医療者向け冊子「がん患者さん・ご家族の声」.	Palliat Care Res	7(1)	342-347	2012
前堀直美、森田達也、他	外来患者のがん疼痛に対する保険薬局薬剤師の電話モニタリング・受診前アセスメントの効果.	ペインクリニック	33(6)	817-824	2012

森田達也	臨床診断より優れた進行がん患者の予後予測モデル 開発予測モデルの再現性は未確認.	MMJ	8(2)	102-103	2012
森田達也	日本ホスピス緩和ケア協会北海道支部第10回年次大会から. 緩和ケア地域介入研究<OPTIM-study>が明らかにしたこと: 明日への示唆.	Best Nurse	23(7)	6-15	2012
岩崎静乃, 森田達也, 他	終末期がん患者の口腔合併症の向き観察研究.	緩和ケア	22(4)	369-373	2012
小田切拓也, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第2回オピオイドのタイトレーション オピオイドの経皮製剤の役割.	緩和ケア	22(4)	346-349	2012
大野友久, 森田達也, 他	入院患者における口腔カンジダ症に対する抗真菌薬の臨床効果に関する研究.	癌と化学療法	39(8)	1233-1238	2012
今井堅吾, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第3回 1オピオイドによる嘔気・嘔吐に対する治療, 2オピオイドによる便秘に対する治療, 3オピオイドによる中枢神経症状に対する治療.	緩和ケア	22(5)	428-431	2012
森田達也	緩和ケア領域における臨床研究: 過去、現在、未来.	腫瘍内科	10(3)	185-195	2012
木下寛也, 森田達也, 他	がん専門病院が地域緩和ケアの向上のために取り組んでいることと課題.	癌と化学療法	39(10)	1527-1532	2012
森田達也	クローズアップ・がん治療施設(28) 聖隷三方原病院 腫瘍センター・緩和ケア部門.	臨床腫瘍プラクティス	8(4)	415-417	2012
鄭陽, 森田達也	EAPC (European Association of Palliative Care) 疼痛ガイドラインを読む. 第4回1. アセトアミノフェンとNSAIDsの役割. 2. 鎮痛補助薬の役割. 3. 腎機能障害のある患者へのオピオイドの使用.	緩和ケア	22(6)	522-525	2012
木澤義之, 森田達也, 他	地域で統一した緩和ケアマニュアル・パンフレット・評価シートの評価: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	172-184	2012
山本亮, 森田達也, 他	看取りの時期が近づいた患者の家族への説明に用いる『看取りのパンフレット』の有用性: 多施設研究.	Palliat Care Res	7(2)	192-201	2012
森田達也, 他	地域緩和ケアプログラムに参加した医療福祉従事者が最も大きいと体験すること: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	209-217	2012
木下寛也, 松本禎久, 森田達也, 他	がん専門病院緩和ケア病棟の運営方針が地域の自宅がん死亡率に及ぼす影響.	Palliat Care Res	7(2)	348-353	2012
森田達也, 他	異なる算出方法による地域での専門緩和ケアサービス利用数の比較.	Palliat Care Res	7(2)	374-381	2012
森田達也, 他	患者所持型情報共有ツール「わたしのカルテ」の評価: OPTIM-study.	Palliat Care Res	7(2)	382-388	2012
白髭豊, 森田達也, 他	OPTIMプロジェクト前後での病院か	Palliat Care Res	7(2)	389-394	2012

	ら在宅診療への移行率と病院医師・看護師の在宅の視点の変化.				
森田達也, 他	遺族調査に基づく自宅死亡を希望していると推定されるがん患者数.	Palliat Care Res	7(2)	403-407	2012
上山栄子、小川朝生、 他	反復経頭蓋磁気刺激によるラット海馬における神経細胞新生の増加	精神神経学雑誌	114	1018-1022	2012
松本禎久、小川朝生	がん患者の症状緩和	Modern Physician	32	1109-1112	2012
小川朝生	がん患者の精神心理的ケアの最大の問題点	がん患者ケア	5	55	2012
小川朝生	がん患者に見られるせん妄の特徴と知っておきたい知識	がん患者ケア	5	56-60	2012
小川朝生	悪性腫瘍 (がん)	精神看護	15	76-79	2012

